

「^{わかすぎやましんしやさいくつ い せき}若杉山辰砂採掘遺跡」の国史跡指定ならびに「阿波遍路道
大日寺境内、地蔵寺境内」の追加指定について

国の文化審議会（会長 ^{さとう まこと}佐藤 信）は、令和元年6月21日（金）に開催された同審議会文化財分科会において、徳島県阿南市の「若杉山辰砂採掘遺跡」を新たに国史跡に指定するとともに、既指定の「阿波遍路道」に板野郡板野町所在の「第4番札所 大日寺境内」と「第5番札所 地蔵寺境内」を追加指定するよう文部科学大臣に答申しました。

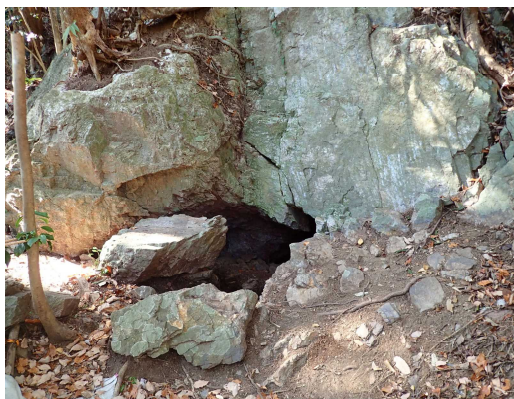
（1）新指定

名 称	若杉山辰砂採掘遺跡
所在地	阿南市 ^{すい い ちよう} 水井町奥田42番9 他
指定地	11,920.29㎡

【内容】

若杉山辰砂採掘遺跡は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、水銀朱の原料である「辰砂」^{しんしや}の採掘を行った遺跡で、岩盤を横穴状に掘り進めた「国内最古」^{さいくつこうあと}の「採掘坑跡」が確認されるとともに、辰砂の採掘に使用した^{いしぎね いしうす}石杵や石臼、土器が出土している。

古代において、赤い顔料として重用された朱の原料「辰砂」の採掘状況を示す「全国唯一」の遺跡として、極めて重要であることから、新たに指定されることとなった。



岩盤に開けられた採掘坑



出土した石杵・石臼

(2) 追加指定

名 称 阿波遍路道「大日寺境内、地蔵寺境内」

①所在地 「大日寺境内」板野郡板野町黒谷字居内5番 外10筆
指定地 10, 204. 37 m²

②所在地 「地蔵寺境内」板野郡板野町羅漢字林東5番1 外9筆
指定地 36, 660. 13 m²

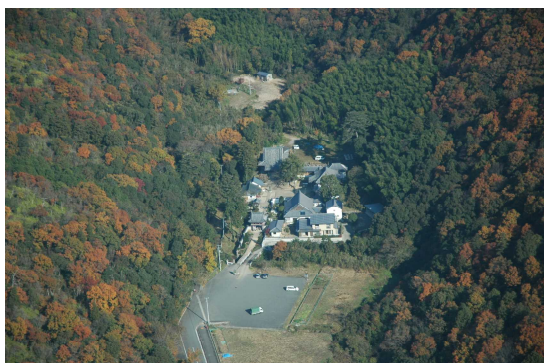
【内容】

史跡「阿波遍路道 大日寺境内、地蔵寺境内」は、板野町に所在する札所寺院で、中世以降、地域社会と一体となり発展してきた。

第4番大日寺は、近世、周辺村々で形成された「構^{こうちゆう}中」とのつながりや、地域を越えた「世話人」などのネットワークが中心となって、札所寺院として発展してきた。

第5番地蔵寺は、札所寺院に加え、藩の祈祷寺としての性格をもち、17世紀後半には四国八十八ヶ寺を代表する「八箇^{はちかじ}寺」の一つに数えられた。

県では「四国八十八箇所霊場と遍路道」の世界遺産登録に向け、札所寺院等の調査を進めており、これら2ヶ寺は、四国遍路の発展過程を考える上で重要であることから、国史跡として追加指定されることとなった。



大日寺遠景



大日寺境内の様子



地蔵寺遠景



地蔵寺境内の様子